

「大阪商業大学 AI・データサイエンス 教育プログラム(基礎)」 自己点検・評価報告書 【2025 年度】

2026 年 6 月 5 日

情報教育委員会



目次

1. 自己点検・評価の実施.....	2
2. 教育プログラムの概要.....	2
3. 履修・修得状況.....	3
4. 学修成果.....	5
5. 学生の内容の理解度.....	5
6. 他の学生への推奨度.....	6
7. 履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況.....	6
8. 修了者の進路・活躍状況、企業等の評価.....	8
9. 産業界等社会からの視点を含む内容・手法等への意見.....	8
10. まとめにかえて.....	9

1. 自己点検・評価の実施

2025年度に実施した「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」（以下、必要に応じて「本教育プログラム」と称す）について、情報教育委員会で自己点検・評価を実施した。点検・評価項目は以下のとおりである。

<学内からの視点>

- 本教育プログラムの履修・修得状況
- 本教育プログラムの学修成果
- 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度
- 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

<学外からの視点>

- 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価
- 産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法等への意見

自己点検・評価に使用したエビデンス資料は以下の通りである。

- (1) 履修者、単位修得者に関する教務データ
- (2) FD委員会による授業評価アンケート（全学年対象）
- (3) データサイエンス教育推進部会による以下の取り組み
 - (3)-1 本教育プログラム対象学生（2025年度は1～3年生）に対する意識調査アンケート
 - (3)-2 本教育プログラム対象科目受講生（1～3年生に限定）に対する意識調査アンケート
 - (3)-3 他大学教員による外部評価

※ 本教育プログラム対象科目担当教員ならびに情報教育委員会、データサイエンス教育推進部会の委員・部会員間でこれらの情報を共有し、本教育プログラムの改善に役立てている。

2. 教育プログラムの概要

大阪商業大学では、2023年度以降「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」を実施している。本教育プログラムは2024年8月、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されている。

以下は「履修の手引き」に掲載された本教育プログラムに関する説明個所の抜粋である。

3.AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）

本学では、AI・データサイエンスの基礎を学ぶ「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」を設置しています。このプログラムでは、Society5.0[※]時代の社会で活躍するための基礎素養である AI・データサイエンスの基礎を学び、それらを業務に効果的に活用することができる能力を身につけることができます。

このプログラムを修了した学生には、修了証が発行されます。発行の手続きは「S-Navil」でお知らせします。

※「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会

■このプログラムでは以下の項目について学びます

①データ・AI 利活用に関する基礎知識

世の中のどのようなところでデータ・AIが利活用されているか、また、データ・AIを扱うための留意事項などを学びます。

②社会で活躍するために必要なデータリテラシー

データを適切に読み解き、加工し、伝えるための知識とスキルを学びます。

【対象科目（修得に必要な単位：6単位以上）】

区 分	授業科目名	配当年次	単位数	プログラムにおける必選
情報科目・情報基礎領域	情報処理概論	1	2	◎
	データリテラシー	1	2	△
ソフトパワー関係科目・人間関係性領域	情報社会と倫理	1	2	◎
	社会調査法	1	2	△

◎の科目はプログラムの必修科目です。プログラムを修了するためには、必ず修得してください。

△の科目はプログラムの選択必修科目です。プログラムを修了するためには、△から2単位以上を修得してください。

※ 本教育プログラム対象科目は、全学共通科目として、すべての学部で受講可能。

※ 「社会調査法」は、社会調査士関連科目の必修科目でもある。

3. 履修・修得状況

【エビデンス】本教育プログラムの対象科目の履修・単位修得状況、本教育プログラム修了状況（2023年度～2025年度）※休学・除籍・退学者を含む。なお入学年度2023年以降の学生に限る（ただし、全学年は入学年度2022年以前の学生を含む）。

学期	科目名	状況	2023年度（3/31現在）		2024年度（2025/3/31現在）			
			1年	（参考） 全学年	1年	2年	1・2年合計	（参考） 全学年
前期	社会調査法 【選択必修】	履修者数	211	399	176	142	318	400
		合格者数	156	257	137	94	231	281
		合格率	73.9%	64.4%	77.8%	66.2%	72.6%	70.3%
	情報処理概論 【必修】	履修者数	225	476	369	178	547	710
		合格者数	156	328	299	139	438	550
		合格率	69.3%	68.9%	81.0%	78.1%	80.1%	77.5%
後期	社会調査法 【選択必修】	履修者数	-	-	207	71	278	348
		合格者数	-	-	150	47	197	244
		合格率	-	-	72.5%	66.2%	70.9%	70.1%
	データリテラシー 【選択必修】 ※情報活用Bを含む	履修者数	128	182	71	64	135	171
		合格者数	116	158	52	56	108	138
		合格率	90.6%	86.8%	73.2%	87.5%	80.0%	80.7%
	情報社会と倫理 【必修】	履修者数	135	246	326	122	448	557
		合格者数	95	161	242	73	315	381
		合格率	70.4%	65.4%	74.2%	59.8%	70.3%	68.4%

（下段に続く）

学期	科目名	状況	2025年度 (2026/3/11現在)				
			1年	2年	3年	1・2・3年合計	(参考) 全学年
前期	社会調査法 【選択必修】	履修者数	180	127	28	335	400
		合格者数	155	96	21	272	319
		合格率	86.1%	75.6%	75.0%	81.2%	79.8%
	情報処理概論 【必修】	履修者数	318	150	104	572	641
		合格者数	256	116	74	446	484
		合格率	80.5%	77.3%	71.2%	78.0%	75.5%
後期	社会調査法 【選択必修】	履修者数	143	73	56	272	314
		合格者数	100	54	47	201	226
		合格率	69.9%	74.0%	83.9%	73.9%	72.0%
	データリテラシー 【選択必修】 ※情報活用Bを含む	履修者数	78	57	33	168	186
		合格者数	72	43	28	143	154
		合格率	92.3%	75.4%	84.8%	85.1%	82.8%
	情報社会と倫理 【必修】	履修者数	292	114	89	495	551
		合格者数	226	78	67	371	403
		合格率	77.4%	68.4%	75.3%	74.9%	73.1%

《履修者メータ》累積実履修者数 (入学年度別)

2026/3/11

収容定員 (対象学年) [B]	1100	1100	2200	2200	3300	3300	4400	4400	4400	4400
収容定員 [A]	4400									

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入学年度										
2023年度生	387	521	706	799	866	915				
2024年度生			503	735	860	919				
2025年度生					455	683				
2026年度生										
累計 [C]	387	521	1209	1534	2181	2517				
対収容定員(対象学年)比 [C/B]	35.2%	47.4%	55.0%	69.7%	66.1%	76.3%				
対収容定員比 [C/A]	8.8%	11.8%	27.5%	34.9%	49.6%	57.2%				
申請書記載値		12.0%		28.0%		46.0%		66.0%		70.0%

《修了者メータ》プログラム修了者数 (入学年度別)

	2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		2027年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入学年度										
2023年度生	0	15	15	21	6	21				
2024年度生			0	55	33	46				
2025年度生					0	44				
2026年度生										
期計	0	15	15	76	39	111				
累計 [D]	0	15	30	106	145	256				
対累積実履修者数 [D/C]	0.0%	2.9%	2.5%	6.9%	6.6%	10.2%				
対収容定員(対象学年)比 [D/B]	0.0%	1.4%	1.4%	4.8%	4.4%	7.8%				
対収容定員比 [D/A]	0.0%	0.3%	0.7%	2.4%	3.3%	5.8%				

【評価・改善】本教育プログラムの対象学生は2023年度以降の入学生であり、2025年度は1年生から3年生が対象である。本教育プログラムの対象科目を履修した学生数は2025年度末時点で2,517名であり、対収容定員比は57.2%である。これは、文部科学省に提出した申請様式に記載している目標値の46%を上回る数字となっている。プログラム修了者数は、2025年度末時点で256名であり、収容定員の5.8%である。今後も継続してプログラム履修者数、修了者数の向上に努めたい。

4. 学修成果

【エビデンス】FD委員会による授業評価アンケート（全学年対象）の結果

設問	科目名	回答者数	5段階評価の 平均値（※）	（参考） 2024年度
関心が持てる授業内容である。	情報処理概論	363	3.9	3.8
	情報社会と倫理	267	4.0	4.0
	社会調査法	403	3.7	3.6
	データリテラシー	94	4.3	4.4
	計	1127	3.9 (4.0)	3.8 (3.9)

※ 「強くそう思う」を5、…、「全くそう思わない」を1とした5段階評価の平均値（以下同様）。

※ ()内は科目別平均の4科目の平均（以下同様）。

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1～3年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	5段階評価の 平均値	（参考） 2024年度
この授業を受講してAI・データサイエンスに興味をもつことができましたか。	情報処理概論	409	3.7	3.5
	情報社会と倫理	392	3.7	3.6
	社会調査法	439	3.4	3.3
	データリテラシー	136	3.7	3.7
	計	1376	3.6	3.5

【評価・改善】科目による評価値に差はあるが、対象科目全体の集計によれば、「関心が持てる授業内容である」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全回答者の約74%であった。また、対象科目を受講して「AI・データサイエンスに興味をもつことができた」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全回答者の約59%であった。2024年度の調査結果に対して、前者で4ポイント、後方で5ポイント上昇している。本教育プログラムの受講生に対してAI・データサイエンスにより興味をもってもらえるよう、継続して授業内容や授業運営方法の改善に努めたい。

5. 学生の内容の理解度

【エビデンス】FD委員会による授業評価アンケート（全学年対象）の結果

設問	科目名	回答者数	5段階評価の 平均値	（参考） 2024年度
授業の内容が理解できている。	情報処理概論	363	3.6	3.5
	情報社会と倫理	267	3.9	3.9
	社会調査法	403	3.5	3.4
	データリテラシー	94	4.1	4.2
	計	1127	3.7 (3.8)	3.6 (3.8)

【評価・改善】科目による評価値に差はあるが、対象科目全体の集計によれば、「授業の内容が理解できている」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、全回答者の約 63%であった。この値は、2024 年度の調査結果に対して 3 ポイント上昇している。担当教員はアンケート調査結果、ならびに、「3. 本教育プログラムの履修・修得状況」で示された科目別合格率（単位修得率）等の教務データに基づき、各自の授業について評価・点検している（担当教員による授業振り返りシートの作成・提出）。学生に対しては、授業内容を確実に理解するため、授業時間外の取り組みであるサポート学習講座（「数学よろず相談」、「パソコン講座」）や担当教員によるオフィスアワーのより積極的な活用を推奨したい。

6. 他の学生への推奨度

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1～3 年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	5 段階評価の 平均値	(参考) 2024 年度
この授業を後輩に勧めたいと思いますか。	情報処理概論	409	3.8	3.6
	情報社会と倫理	392	3.7	3.8
	社会調査法	439	3.5	3.6
	データリテラシー	136	3.7	3.9
	計	1376	3.7	3.7

【評価・改善】科目による評価値に差はあるが、対象科目全体の集計によれば、「この授業を後輩に勧めたい」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は全回答者の約 61%で、2024 年度からの変化はなかった。本設問に対する回答には学生の授業内容に対する満足度が反映されていると考えられるので、この数値を高めるため、各教員が次年度の授業内容、授業運営方法を工夫するとともに、本教育プログラムの意義をより丁寧に説明することを心がけたい。

7. 履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本教育プログラムの履修者数・履修率向上に向けて、学生への周知の強化と、希望する学生が履修しやすい環境の提供に取り組んでいる。これらの取り組みにより、本教育プログラムへのより多くの学生の参加が期待できる。

7-1 学生への周知に関する取り組み

【エビデンス】本教育プログラム対象学生（1～3 年生全員対象）に対するアンケート調査結果

設問	選択肢	回答者数	割合	(参考) 2024 年度
あなたはこのアンケート回答前に「AI・データサイエンス教育プログラム（基礎）」の存在を知っていましたか。	はい	597	33.1%	29.2%
	いいえ	1209	66.9%	70.8%
	計	1806		

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1～3年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	「はい」の割合	(参考) 2024年度
この授業が「AI・データサイエンス教育プログラム(基礎)」の対象科目であることを知っていますか。	情報処理概論	409	76.3%	74.5%
	情報社会と倫理	392	73.7%	72.1%
	社会調査法	439	69.5%	54.5%
	データリテラシー	136	83.8%	73.1%
	計	1376	74.1%	67.2%

【評価・改善】全1～3年生のうち「本教育プログラムの存在を知っていた」と回答した学生は約33%であり、2024年の約29%に比べて4ポイント向上した。ただし、約67%の学生は本教育プログラムの存在を認知していない。また、対象科目受講生のうち「受講している科目が本教育プログラムの対象科目であることを知っている」と回答した割合は74%である。本教育プログラムの周知に関して、2025年度は、以下の改善を実施した。

- 周知用チラシ/ポスターの改訂、利用範囲の拡大（新入生オリエンテーションでの配布等）
- 授業支援システム上に本教育プログラムの周知を目的とするコンテンツを設置
- 本教育プログラムのプロモーション動画の作成と活用
- 本教育プログラム対象学生に対するアンケート調査（周知を兼ねる）の継続実施

【エビデンス】本教育プログラム対象学生（1～3年生全員対象）に対するアンケート調査結果

設問	回答者数	5段階評価の 平均値	(参考) 2024年度
あなたは、今後「AI・データサイエンス教育プログラム(基礎)」の対象科目を履修して、修了証をもらいたいと思いますか。	1806	3.2	3.2

【エビデンス】本教育プログラム対象科目受講生（1～3年生限定）に対するアンケート調査結果

設問	科目名	回答者数	5段階評価 の平均値	(参考) 2024年度
あなたは、今後「AI・データサイエンス教育プログラム(基礎)」を修了して、修了証をもらいたいと思いますか。	情報処理概論	405	3.8	3.9
	情報社会と倫理	389	3.7	3.9
	社会調査法	433	3.6	3.7
	データリテラシー	131	3.8	3.8
	計	1358	3.7	3.8

【評価・改善】本教育プログラム修了者には、オープンバッジ（デジタル証明書）を発行している。「本教育プログラムを修了して修了証を取得したい」と回答した学生（強くそう思う、そう思う）は、1～3年生全員を対象としたアンケートでは全回答者の36%（昨年度は約41%）、対象科目受講生を対象としたアンケートでは全回答者の62%（昨年度は約64%）であった。授業内外で本教育プログラムの有用性、重要性を周知する取り組みを継続し、積極的に本教育プログラムの修了を目指して履修計画を立てるよう推奨していきたい。

7-2 希望する学生が履修しやすい環境の提供

【評価・改善】本教育プログラム対象科目の時間割配置・クラス数等に関して、今後以下の改善を行う予定である。

- 「データリテラシー（後期）」は情報処理実習室を使用する人数制限科目であり、履修希望者が定員を超えるクラスは抽選になっている。希望する学生の履修機会を確保するため、2026年度は開講クラス数を2025年度の6クラスから2クラス増やし、8クラスで実施する。
- 本教育プログラム対象科目を可能な限り時間割上重複しない曜日時限に配置する（2023年度から継続）。

8. 修了者の進路・活躍状況、企業等の評価

2023年度以降の入学生を対象としたプログラムであり、本教育プログラムを修了した卒業生は出ていない。したがって、現時点では、本教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について点検・評価はできない。2027年度以降は、本教育プログラムを修了した卒業生が、企業等で働くようになる。その際には、キャリアサポート室、および、IR (Institutional Research) 推進委員会ならびに就業力測定部会による卒業生の活躍状況の調査や企業等の評価に関する点検・評価を実施することを予定している。

9. 産業界等社会からの視点を含む内容・手法等への意見

9-1 企業人による評価

2025年度は企業人による外部評価は実施していない。

9-2 他大学教員による評価

数理・データサイエンス・AI教育プログラムを先行実施している大学の教授（2名）による外部評価を実施した。寄せられた意見の概要は以下のとおりである。

優れている点：

- 累積実履修者数が申請時の目標値を上回っており、教育プログラムとして順調に定着している。また、修了者数が前年度より大きく増加しており、学生への認知が広がっている。
- 授業評価アンケートにおいて、「関心・興味」「内容の理解度」などの項目が概ね前年度を上回っており、授業改善の成果が見られる。
- 「情報処理概論」「情報社会と倫理」を必須科目とし、就職後に必要となるデータ活用リテラシー教育を重視している点をはじめ、社会の時流に沿った教育内容であると評価できる。

改善を要する点：

- 履修者数に比べると、プログラム修了者数は依然として少ない。
- プログラム認定そのものの認知度向上は引き続き課題である。
- 「データリテラシー」では、データ処理の実習に加えて、数学的背景や統計的な考え方の学修をより充実させることが望まれる。

アドバイス：

- 委員会には各学部から最低1名程度が参画する形とし、各学部の視点を取り入れることで、全学的な理解と学生への周知をさらに進めることが望ましい。
- 今年度に1科目または2科目を履修した学生に対し、次年度に不足科目を履修するよう継続的に案内するなど、修了につながる履修支援を行うとよい。
- プログラム関連科目の開講時間帯をある程度固定化し、学生が履修計画を立てやすいモデルを提示するとよい。
- 「データリテラシー」を前期にも開講するなど、履修機会を広げることを検討するとよい。
- 生成AIについては、事例紹介にとどまらず、実際に活用する演習や授業の導入を計画的に検討するとよい。

9-3 数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム加盟

2025年12月、本教育プログラムの運営・推進において全国の大学と連携を図ることを目的として、「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム」に加盟した。

10. まとめにかえて

10-1 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

【評価・改善】本教育プログラムは必修科目と選択科目を合わせて3科目の単位修得を修了要件としている。問題演習やグループワークなどをできるだけ取り入れた授業展開に必要な時間的余裕を確保し、学習量に余裕を持たせ、比較的緩やかなペースで反復しつつ内容をしっかりと学習・理解できる科目構成としている。このことで、確実に理解できたという充実感とともに、AI・データサイエンスを学ぶことの楽しさを実感することにつながり、より発展的な学習に挑戦する動機づけにつながっていると考えられる。2026年度入学生から「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム（応用）」を開始する。本教育プログラム（基礎）を履修した学生の多くが応用プログラムに挑戦することを期待している。

10-2 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

【評価・改善】授業の質を維持・向上しつつ、より分かりやすい授業とすることを目的として、

- 1) 内部評価：学生アンケート、対象科目担当者による振り返り
- 2) 外部評価：外部評価者（企業人、他大学教員）による意見聴取

を実施している。これらから得られた情報は、関係者間で共有され、教育プログラム全体の改善に役立てられている。今後、これらに加え、本学のFD委員会が実施している公開授業の対象科目として学内の教員の意見を聴取するなど授業の質向上に努めたい。

「大阪商業大学 AI・データサイエンス教育プログラム(基礎)」
自己点検・評価報告書【2025年度】

2026年6月5日発行

大阪商業大学 情報教育委員会
